

令和2年度決算の状況

令和2年度 水道事業報告書

1 概 況

(1) 総括事項

水道事業は、給水人口の減少等による使用水量の減少に伴って、料金収入が年々減少傾向にあり、経営的には非常に厳しい状況となっています。

今年度においては、いわゆる巣ごもり需要に伴う家事用の使用水量の増加及び経費の削減等の取組により、黒字とはなりましたが、営業収支では依然として営業損失を計上しており、より一層の経営の健全化が求められます。

水道事業の財政運営は、今後も一段と厳しいものになっていくものと想定されますが、水道事業経営戦略に基づき、水道事業のあるべき姿である「いつでも安全で安定した水の供給」の実現に向けてさらに取り組んでいきます。

(ア) 営 業

本年度の有収水量は、3,259,329^m³（1日平均8,905^m³）で、前年度と比較して63,122^m³（2.0%）の増加となりました。

(イ) 建設改良（消費税及び地方消費税込み）

本年度は、施設の改良工事等に総額で154,447,049円（うち消費税及び地方消費税11,426,278円）を支出しました。

本年度に実施した主な工事は、以下のとおりです。

・白石一丁目地内配水管改良工事	29,573,500円
・岩国大竹道路事業に伴う送配水管・工業用水道管移設工事（水道事業会計分） （繰越分）	21,638,759円
・防鹿水源地遠方監視装置（小方・立戸・大竹）更新工事	15,950,000円
・防鹿水源地遠方監視装置（阿多田）更新工事	15,400,000円
・防鹿水源地仮設膜ろ過設備設置工事	12,320,000円

(ウ) 経理の状況（消費税及び地方消費税抜き）

令和2年度の収益的収支は、収入総額 529,270,014円、支出総額 496,292,679円で、差引き 32,977,335円の純利益となりました。

当年度における収支の状況は次のとおりです。

収益的収支	収入総額	529,270,014円
(消費税及び地方消費税抜き)	支出総額	496,292,679円
	差引利益額	32,977,335円
資本的収支	収入総額	58,902,451円
(消費税及び地方消費税込み)	支出総額	203,138,747円
	差引不足額	144,236,296円

資本的収支の不足額144,236,296円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 11,426,877円、過年度分損益勘定留保資金 132,809,419円で補てんしました。

○令和2年度 工業用水道事業報告書

1 概 況

(1) 総括事項

工業用水道事業は、旧第2期工業用水道事業の企業債償還利息や減価償却費が、収支を大きく圧迫していますが、経費の節減等に努め、今年度も利益を計上することができました。

今後も、適切な施設の維持管理を行うとともに、より一層の経費節減を図りながら経営の健全化に努めてまいります。

(ア) 営 業

本年度の有収水量（計量分）は、10,430,359^m³（1日平均 28,576^m³）で、前年度と比較して214,839^m³（2.0%）の減少となりました。

(イ) 建設改良

本年度は、施設の改良工事等に総額で40,902,241円（うち消費税及び地方消費税 3,718,385円）を支出しました。

本年度に実施した主な工事は、以下のとおりです。

- ・岩国大竹道路事業に伴う送配水管・工業用水道管移設工事
（工業用水道事業会計分・繰越分） 36,376,841円

(ウ) 経理の状況（消費税及び地方消費税抜き）

令和2年度の収益的収支は、収入総額 509,530,530円、支出総額 404,051,585円で、差引き 105,478,945円の純利益となりました。

当年度における収支の状況は次のとおりです。

収益的収支	収入総額	509,530,530円
（消費税及び地方消費税抜き）	支出総額	404,051,585円
	差引利益額	105,478,945円
資本的収支	収入総額	217,300,712円
（消費税及び地方消費税込み）	支出総額	595,145,447円
	差引不足額	377,844,735円

資本的収支の不足額 377,844,735円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 3,814,178円、過年度分損益勘定留保資金 150,852,188円、当年度分損益勘定留保資金 223,178,369円で補てんしました。

令和2年度 公共下水道事業報告書

1 概 況

(1) 総括事項

公共下水道事業は、処理人口の減少等に伴う使用料収入の減少傾向がある中で、施設の老朽化が進んでおり、その対策を含め厳しい経営状況が依然として続いています。

そのため、下水処理場やポンプ場等の施設の延命化と維持費の平準化等による中長期的な費用の抑制を図る「下水道ストックマネジメント計画」に基づき、経費の節減等による経営の健全化に引き続き努め、今年度も利益を計上することができました。

今後も、一層の経営の健全化に努めるとともに、安心して生活を営むために不可欠な、快適な生活環境の維持と公共用水域の水質保全に取り組んでいきます。

(ア) 営 業

本年度の有収水量は、2,914,032 m^3 （1日平均 7,962 m^3 ）で、和木町からの受入水量は、1,615,595 m^3 （1日平均 4,414 m^3 ）になりました。

本市では、人口普及率は95.4%に達しており、区域内水洗化率は99.6%で、全国的に見ても高い水準を維持しています。

(イ) 建設改良（消費税及び地方消費税込み）

本年度は、建設改良工事費として総額で277,496,087円（うち消費税及び地方消費税22,920,782円）を支出しました。

本年度に実施した主な業務は、以下のとおりです。

- ・大竹下水処理場機械電気設備改築更新実施設計業務（繰越） 27,683,700円
- ・大竹下水処理場共同処理整備基本設計業務 15,534,200円

(ウ) 経理の状況（消費税及び地方消費税抜き）

令和2年度の収益的収支は、収入総額 962,673,257円、支出総額 909,568,496円で、差引き53,104,761円の純利益となりました。

当年度における収支の状況は次のとおりです。

収益的収支	収入総額	962,673,257円
(消費税及び地方消費税抜き)	支出総額	909,568,496円
	差引利益額	53,104,761円

資本的収支	収入総額	179,420,347円
(消費税及び地方消費税込み)	支出総額	486,937,739円
	差引不足額	307,517,392円

資本的収支の不足額 307,517,392円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額14,714,645円、過年度分損益勘定留保資金122,466,140円、当年度分損益勘定留保資金170,336,607円で補てんしました。